

編集室

* 今月号は、毎年恒例である会誌1冊を一つのテーマで統一した特集号である。今年は「情報爆発時代に向けた新たな通信技術——限界打破への挑戦——」というテーマで、通信技術を様々な側面から見て、ボトルネックをブレイクスルーする最先端技術の現状と方向性をまとめてみた。例月の小特集とは異なり多数の解説記事を集めるため、企画段階から編集の労力が大変だが、一方多岐にわたる記事構成で深掘りが可能で、編集委員の本領を発揮できる絶好の機会でもある。

* 通信WGの企画ではあるが、できるだけ広範囲にわたる記事構成に「挑戦」するため編集委員の方々の英知を結集した。各分野で著名な執筆者の方々を推薦頂き、企画が委員会で決裁された後も、記事の校閲で尽力して頂いた。特に今回は、限られた紙面にできるだけ多くの記事を載せたいという編集チームの意気込みがあり、そのため各記事の内容を損なうことなくぎりぎりまでコンパクトにまとめるという編集手腕を発揮して頂き、80ページを超える長編ながら「筋肉質な」特集を実現できたと自負している。これも編集委員各位の尽力のお陰と、この場を借りてお礼申し上げます。

* 読者の方々には、ここで取り上げた以外の分野でも限界打破に挑戦されている方々も多いと思われる。そういう挑戦は、分野や専門が異なることはあっても考え方やアプローチは共通するものがあるはずで、これらの記事から触発されて皆様の研究が更に進展していくきっかけとなれば幸いである。

* 今月号で編集特別幹事としての私の仕事は任期満了であるが、2年間もの間、曲がりなりにも務められたのは、事務局の皆様・通信WGの編集委員の皆様のおかげからと感謝している。チームを引っ張るというより、ついていくのがやっとの感じであったが、編集の面白さを満喫できた2年間であった。ここで得られた経験・ノウハウは、後任の方にも引き継いでより一層魅力ある紙面作りに生かして頂ければ、と思う。

* 最後に会誌編集に携わる中でお世話になった多くの方々へ心より感謝するとともに、今後の会誌の更なる発展をお祈り申し上げます。

(編集特別幹事 笹山浩二)

* 3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震では多くの方が犠牲になり甚大な被害が出ました。編集委員会一同、災害被害に遭われた方々に、心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。また、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

* 今回の震災は、かつて我々が経験したことのない未曾有の大震災でした。その規模はこれまでに我々が想定した大きさをはるかに超えており、津波による大きな被害や原子力発電所の事故、一部都市機能の混乱を招きました。このような大自然の猛威を目の当たりにし、我々は無力感さえ覚えます。

* しかしながら、我々は歴史的にこれまで多くの自然災害に立ち向かい、これを克服するために科学技術を進歩させてきました。また、これにより安全で安心な世の中を築いてきました。今こそ大災害の経験を基に、総力を結集して科学技術を更に進歩させ、同様な災害にも耐え得る安全な社会を構築しなければならないと思います。また、それは我々科学技術に携わる人間の責務だと思います。

* 今、筆者のところには世界中から日本の安否を気遣うメールがたくさん届いています。また、世界各国から日本に対して多数の救援隊の派遣や支援の申し出を得ています。世界中からの励ましの言葉や支援を得て、人々の温かい気持ちを実感するとともに心強さを感じます。御心配を頂いた世界中の皆様深く感謝致します。

* 今後の日本の復興のためには、各人が、与えられた責務と個人の能力の中で何をすべきかをよく考え、最大限の努力を払う必要があります。本会会誌編集委員会でも一日も早い日本の復興を目指し、会員の皆様のお役に立てる会誌の発行を、全力を尽くして行っていく所存です。今後とも御支援を頂きたくどうぞよろしくお願い申し上げます。

(編集特別幹事 吉川信行)